活躍する卒業生たち

「この仲間達とともに」

人間発達学部　子ども発達学科 4期生
牧瀬 智寛（前列右端）

私は現在、滋賀県東近江市にある、「社会福祉法人汀会　止揚(しよう)学園」という障害者支援施設に勤務し、知的に障がいのある仲間と共に日々生活(活動)をしています。止揚学園は、平成25年(2013)に創立50周年を迎え、創立以来、「ともに」という言葉を大切にしています。人は誰でも、自分より弱い立場の人をみると、「この人のために何かしてあげよう」といった気持ちを持つものですが、それによってその方たちの人権を奪ってしまっていることがあります。この施設では、止揚学園の『止揚』という言葉の意味にもあるように、障がいのある方たちと同じ目線で、一緒になってぶつかり合い、新しいものを築いていくということを大切にしています。

一般的に、福祉の現場はしんどくて大変といったマイナスイメージが強いかもしれません。この施設と出会うまでは、私もそのように思っていましたし、障がいのある方に対して「何も話せないと何を思っているか分からない」などといった偏見を持っていたように思います。しかし、ここにいる方たちと出会い、生活を共にしていく上で、それが間違っていたことに気付かされ、たくさんのことを学びました。障がいのある方たちは、思ったことをそのままぶつける素直なものを持っています。表と裏があるといったことは一切ありません。一緒に生活をしていると、私も自然と素直な気持ちになれ、「素の自分」を出すことができて、明るい気持ちになれます。

ある日、話をすることのできない方と食事をしていた時に、私が悩んで暗い表情をしていたようで、そっと私の手の平に自分の手を置いて、ニコッと笑顔で見てくださいました。その際、言葉はなかったのですが、私たちよりも豊かな表現力や表情・態度で語っておられました。このような出会いから、人と関わる上で大事なことは、相手のことをどれだけ思いやることができるか、他人を愛することができるのかということを教わりました。そして、それが人と人との信頼関係を築く為の第一歩であると感じました。

学生の時に施設実習でお世話になったことが、止揚学園と出会うきっかけとなりました。学園の設立者でリーダーの福井達雨先生が、「実習に来るなら、優等生より劣等生を」と言われたそうです(「大学でいつも手のかかる学生」ということで、私が選ばれたのかもしれません)。その理由を福井先生にお聞きしたところ、「賢い人は型にはまった考え方を持っていて楽しくないんや。そして、強い立場にたって物事を見てしまう。それなら、困った生徒の方が柔軟な考え方を持っている。そういう生徒の方が、この知的に重い障がいのある仲間とは合うんや」という言葉を頂きました。

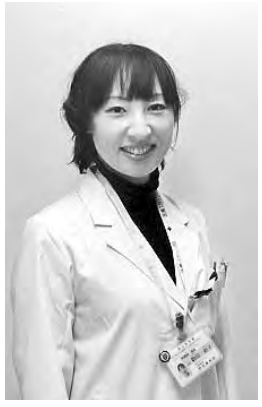
それまでの私は、ちゃらんぽらんな性格もあり、人に必要とされることがなく、「自分一人で生きていける」という気持ちを持っていました。しかし、止揚学園の仲間たちと出会い、助け合うということの大切さを学び、仲間たちから滲み出てくる、共に歩もうという温かい気持ちを感じました。そして、人に必要とされるということは、どれだけ幸せなことだろうと考えさせられました。この方たちの気持ちを大切にしたいと思い、奉職することを決断しました。

ここにはたくさんの温かさや優しさ、命を預かっているという責任感とやりがいで満ち溢れています。

また、一日一日新しく教えられることがあって、その都度に力を与えられている、すばらしい世界だと思います。

これからも、この出会いに感謝しつつ、この仲間たちと共に、笑顔の絶えない、明るい歩みを続けていきたいと思っています。

『一人ひとりにあった食事の提供』



平成10年食物卒
駒田 裕子

私は卒業後、化粧品会社に販売員として就職しました。しかし、知人に病気と食事のことを相談された際に上手く答えられず、もう一度栄養について勉強しようと思い、委託給食会社に栄養士として再就職しました。その後、2年間栄養士として働きながら管理栄養士の資格を取得し、現在は兵庫県尼崎市にある西武庫病院という59床の療養型病院で栄養課課長として働いています。学生実習で現場を訪れた頃には、病院で勤務するとは思いもしませんでした。患者さんの病気や栄養状態を良くしたいという強い信念を持ち続ければ実現できるのだと思います。

入職した当時、管理栄養士は一人でした。他の病院の管理栄養士の方々との共同研究で糖尿病患者へのツールを使用した栄養指導をさせていただいたことなどから業務内容が増えたため、管理栄養士を増員していただきました。現在では栄養サポートチーム(NST)などの活動も積極的に行い、学会での発表や関係雑誌での執筆等もしています。

また、ターミナル患者さんや著しく食欲が低下した患者さんなどに提供する特別メニュー「コスモス食」にも力を入れています。名前の由来は、病院近くを流れる武庫川の河川敷に毎年550万本もの花を咲かせるコスモスです。ゴミの不法投棄が絶えない場所でしたが、平成15年に地域ボランティアの方々が掃除をし、コスモスの種を植えてくださいました。年々その本数が増え、今はコスモス畑として尼崎市の名所になっています。みんなで力を合わせれば、こんなに環境がよくなるものなのか……という思いから、命名しました。入院中の患者さんに対し、多職種のチームで関わり、食事の質を上げていくことで少しでも状態が良くなり、「QOL(quality of life)=生活の質」を改善できればいいなと思っています。

ベッド数は59床と決して大きい病院ではありません。だからこそ全患者さんの顔と名前を把握して栄養管理をし、一人ひとりにあった食事を提供できるのだと信じております。これからも、食を通じていろいろな方と関わりたいと思っております。

京都支部

京都ならではの雰囲気で少女時代に戻るひととき

昨年の京都支部は、名残の桜が美しい4月15日に中京堺町六角に有る料理旅館「こうろ」で大勢の御出席を頂き総会を開催致しました。

「こうろ」のお心使いで献立表には藤色で校章が入っていて驚きと喜びが湧きました。お料理も美味しく、あちらこちらで笑い声や話の花が咲きました。帰りには「こうろ」から可愛い友禅の巾着を頂き、皆で見せ合い女の子に戻り笑って、お開きになりました。

秋は京都支部恒例の紅葉会を東山下河原の「銅板屋」で11月13日に開催。日本家屋が、ステンドガラスの入ったモダンな昭和レトロに改装されたステキなお部屋で、大きな窓から見える景色を見ながら西洋料理を楽しみました。元気で良い年を迎え桜の季節に会いましょうといって笑顔でお開きとなりました。

京都支部長　河村政子

東海支部

21年目を迎え、深まる交流

東海支部も活動を始めてから、21年目を迎えました。これも諸先輩達が道筋を作って下さったおかげと感謝申し上げます。昨年の総会は、日本一予約が取れないと話題の落合シェフのお店で、通常と違う工夫がされたメニューを出して頂き、皆様の会話もはずみ楽しい会となりました。又、秋には神戸まで足を延ばし、お昼には神戸ステーキ、食後に異人館めぐりや六甲ケーブルに乗り山頂から神戸港の海岸線の美しさ、鮮やかな紅葉など笑いの絶えない楽しい一日でした。今年は歴史を感じる料亭加茂免で総会を行う予定をしております。

今期より森正子(昭和46年卒)が支部長を務めさせて頂きます。多数の参加をお待ち申し上げます。

東海支部長　森正子

関東支部

トスカーナの伝統料理を楽しみ、全員で大合唱！

平成26年度の総会は6月11日に梅雨のまっただ中にもかかわりませず、京都支部、東海支部からもご出席下さり開催致しました。

会場は東京青山の街中に、天然木材使用の重厚な一軒家のイタリアンレストラン(リストランテ エノテカ リブァ デリ エトウルスキ)。

権威ある真のイタリア料理の認定書を授与されている素晴らしいお料理にあちらこちらから感嘆の声が聞こえ、弾む会話と共にトスカーナの伝統料理を堪能致しました。その後は、音楽学部卒業生による女声コーラス「さら」による、懐かしい恩師山田耕筰先生の「からたちの花」など数曲を楽しみました。終わりには東北支援復興を祈りながら「花は咲く」を、全員にプレゼントされた一輪のバラを胸に抱いて大合唱を致しました。

今年も楽しい同窓会を開きたいと考慮中です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

関東支部長　河野多伎子